

第2回せとうちART研究会

P-11

香川 2019.09.1

卵子提供、養子縁組に関する情報提供時期の検討

—患者アンケート結果から—

○佐野 郁美、関藤 由佳里、杉本 朱実、西原 卓志、森本 義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

I. 目的

晩婚化に伴う患者の高齢化により、不妊治療が長期となる例も少なくない。治療を行っていく中で、一つの選択肢として卵子提供や養子縁組の情報提供を行う事がある。そこで今回、不妊治療中において卵子提供、養子縁組に関する情報提供を行う必要性と時期を検討する。

II. 方法

期間：2018年4月20日から2018年5月11日

当院に来院された患者に自記式質問調査を実施した。質問紙には個人は特定しないこと、目的以外では使用しないこと、回答は自由意思であることを文章に明示し同意を得られた患者のみ調査を行った。

III. 結果

回収率92%（配布64名中回答59名）

不妊治療中に卵子提供、養子縁組の情報は必要だと思うか？については71%がはいと回答した。この項目ではいと回答した患者の内、情報はいつ得られるのが望ましいと思うか？に対しては、医師が必要と感じた時が一番多く（60%）次いで初診時（28%）であった。卵子提供、養子縁組のパンフレットが院内に設置されていた場合に抵抗を感じるか？については91%がいいえと答えた。また、卵子提供、養子縁組の案内が診察時に個別である場合抵抗を感じるか？について25%がはいと答えた。また、肯定的な意見の中にも「案内をする時期にもよる」という意見があった。

IV. 考察

不妊治療において卵子提供、養子縁組の情報提供は、約7割が必要と回答され、情報提供ができるシステム構築の必要性を感じた。個別での情報提供は患者自身の気持ちに沿いつつ慎重に行うことが必要である。同時に、院内にパンフレットを設置する事に関しては約9割が抵抗はないことを踏まえ、患者が自ら情報を得るタイミングを選択できるよう、不妊治療施設では積極的に院内に設置すべきであると考えている。